

図書館だより

No. 7

平成30年11月2日

日増しに秋が深まり、木々が色づいてきました。これから関東も紅葉が見ごろとなりますね。航空公園のイチョウ並木や川越喜多院のみじなど、近場にも紅葉の楽しめる場所が色々あるものです。航空公園内には日本庭園と茶室もありますので、お茶をいただきながら、ほっこりした時を過ごしてみるのもいいですね。



さて、秋には「〇〇の秋」という言葉をよく耳にしますが、今年は日生劇場にてオペラ「コジ・ファン・トゥッテ」を鑑賞し、「芸術の秋」が楽しめますね。事前学習で鑑賞のポイントを掴んだと思いますが、せっかくの舞台鑑賞の機会ですから、図書館の本やDVDも活用し、知識を深めておきましょう。日生劇場は素晴らしい建築物でもあります。真っ赤な絨毯の敷かれた螺旋階段、ガラススタイルのモザイクになった壁面、二万枚のアコヤ貝が張られた天井など隅々まで鑑賞してください。

オペラ鑑賞のコツを掴む

766-7 『オペラ・ギャラリー50』 学習研究社

50のオペラが作品ごとにわかりやすく解説されています。あらすじだけでなく、登場人物の心情をグラフで示してくれているので、どこで誰と誰がどのように関わりながら物語が進んでいくのかが掴みやすいです。『オペラには、時代や国境を越えた人間の感情が、音楽を通して表現されているのだ』と本文にも書いてありましたが、オペラでは物語にのせて音楽を楽しみたいものです。その点に関しても、心の動きによってどんな音楽が歌われるのか、おさえておきたいポイントがしっかりとまとまっています。どの場面が盛り上がりどころなのかを掴めば鑑賞がより楽しくなることでしょう。

造形美を楽しむ

523-キ 『日本の最も美しい名建築』 田中 禎彦 || 文 小野 吉彦 || 写真 エクスナレッジ

日本各地に残る近代建築の写真集。「とにかく写真で見て豪華、美しい建築を選んだ」というだけあって、建築に興味がなくとも「これはすごい」と目を留めてしまうものばかりです。普段、出かけている時には、建物に注目してそれがどんな様式で、誰の手によって作られたものなんだろうと気にかけることは少ないかもしれません。せっかく身近にたくさん名建築があるのですから、立ち止まってじっくりと造形美を楽しんで、心を豊かにしたいものです。日生劇場の入っている日本生命日比谷ビルも収録されていますので、「コジ・ファン・トゥッテ」と併せて予習してみてください。

読書会

★11月15日(木)15:10～ 図書館

1学期に続き、夏目漱石の『ころ』についてみんなで語り合います。第二部『両親と私』を読んで感じたことをたくさん聞かせてください。



おはなし会

★11月29日(木)15:10～ 図書館

今年最後のおはなし会です。宮沢賢治や中原中也の作品、『ぐりとぐら』や『めっきらもつきら どおんどん』などの懐かしい絵本の読み聞かせの他、戯曲も行う予定です。みなさん一緒に本の世界を楽しみましょう。

図書館と県民のつどいに朝井リョウさんがやってくる!!

今年で12回目を迎える『図書館と県民のつどい埼玉2018』では図書館や読書に関心を持ってもらうための様々な企画が催されます。今年の記念講演では、なんと朝井リョウさんからお話が聞けます。入場は無料ですが、要予約ですので、気になる人は「埼玉県立図書館」のホームページをチェックしてください。

913.6-7 『もういちど生まれる』 朝井 リョウ || 著 幻冬舎

子どもから大人になっていく若者たちの葛藤を描いた連作短編集。自分と誰かを比べて苦しくなったり、叶わない恋に胸を痛めたり、自分に正直になれなかったり、状況は違えど、一度は自分も経験したことがあるような気持ちが散りばめられています。もがいているのは自分だけじゃない、そう思えるだけで、きっと余計な力が抜けて、視界が広がるはず。今読んでもおもしろいし、大人になってから10代の頃の自分を振り返りながら読んでもおもしろい、二度読んでほしい本です。

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

「寒い季節に読むのがおすすめです」と言われていた『BUTTER』(913.6-1 柚木麻子 || 著 新潮社)を読みました。寒い季節におすすめの理由は、バターがたっぷりと登場するから。そう聞くと、お菓子が好きな主人公やおいしい洋菓子屋さんが出てくる物語を想像しますが、『BUTTER』に登場するのは、なんと、連続不審死事件の被告人の女(梶井)と、その女を追う雑誌記者(里佳)です。取材のチャンスを手にした里佳が梶井と繰り広げる料理の話。そこに何度も登場するのがバターです。バター醤油ごはん、たらこバターの Pasta、塩バターラーメン、バタークリームケーキ、梶井がうっとりとする料理の話は、食に興味のなかった里佳の気持ちを変えていきます。食べるのが好きな私は、終始「おいしそうだなあ、食べたいなあ、作りたいなあ」と思いながら読んでいました。重く、背後にある闇を常に感じる内容なのに、食べ物の話だけは常に妖しく輝いて食欲をそそってくるという不思議な感覚を体験した物語でした。

☕ 2018年の読書週間は ☕

10月27日(土)～11月9日(金)は読書週間です。戦後まもない1947年から始まった歴史のある国民的行事です。みなさんにも積極的にこの行事に参加



し、読書によって豊かな心を育ててほしいと思い、図書館だよりも毎年様々な企画を載せています。今年の紙面も楽しんで読んでください。1冊でも心の琴線にふれる本が見つければ、嬉しいです。

今年の標語は『ホッと一息 本と一息』です。「忙しくて、本を読む時間なんてない」という人も電車の中や寝る前にほんの10分だけでも本を開いてみませんか。その10分が心をホッとさせてくれる大切な時間になるかもしれません。少しずつ長編を読み進めていくのもいいし、1日1編の詩を読んでもいいし、絵や写真を眺めるだけでもいいのです。忙しい毎日だからこそ、どこかに休息を取り入れて、心をリフレッシュさせてください。

ネガティブな感情を切り替えてホッと一息

E-E 『だいじょうぶだよ、モリス』 カール・ヨハン・エリーソン || 著 飛鳥新社

子どもを10分で寝かしつけられるというキャッチコピーで話題となった絵本『おやすみロジャー』のシリーズ第三弾。子どもが日常生活で感じる不安を取り除くための方法が物語の中に込められています。新しい環境に不安を感じた時、苦手なものを目の前にした時、怪我の痛みを泣いてしまった時、どうすればその気持ちを和らげることができるのか。その方法は一見するととてもシンプルなものに思えますが、大人も応用して取り入れることができるものです。まずは自分自身の心に向けて読み、不安やストレスとの向き合い方のヒントを掴んでみてください。そしてそれから「だいじょうぶだよ」という気持ちを込めて、子どもに読み聞かせてあげてください。

甘いお菓子でホッと一息

673-C 『イギリスのお菓子を会いにロンドンへ』 小松 喜美 || 著 イカロス出版

ロンドンには、東京から飛行機で12時間。世界で最も有名な都市のひとつであり、歴史と伝統が息づく街でありながら、最新カルチャーの発信地でもあります。そのロンドンをお菓子とカフェで巡る本です。「イギリスは食べものがおいしくない」ということをよく耳にしますが、そのイメージが変わるようなおいしそうなお菓子がたくさん紹介されています。優雅な気持ちでいただけるアフタヌーン・ティー、体に馴染んだ伝統の味や名店の味、日本のようにイギリスでも愛される駄菓子、紅茶によく合うお菓子など、日本では見慣れないものも多く、「どんな味がするんだろう」とワクワクした気分で読めます。レシピが載っているものもありますので、手作りに挑戦してみるのも◎です。

ネコたちのくつろいだ姿にホッと一息

748-I 『岩合光昭の世界ネコ歩き2』 岩合 光昭 || 著 クレヴィス

ニューヨークのおしゃれな街の中にも、北の海に囲まれた赤毛のアン島のプリンスエドワード島にも、大自然の宝庫ケアンズにも、アラブの砂漠にも、世界中どこへ行ってもネコはいます。そのネコたちの姿をカメラにおさめるのは、40年以上ライフワークとしてネコを撮り続けている岩合光昭さん。岩合さんの撮るネコたちの気取らない自由でのびのびとした表情を見ていると、和やかな気持ちになれます。ネコにもネコなりの苦勞がきっとあると思いますが、この本の中のネコたちのように暖かい日差しをたっぷり浴びて目を細めたり、美しい景色の中で体をうんと伸ばしたりする時間のあ

おいしいお夜食にホッと一息

913.6-7 『マカン・マラン』 古内 一絵 || 著 中央公論新社

商店街の路地裏に小さな中庭を持つ古民家のような一軒家がある。昼には手作りのダンス衣装を扱う専門店「シャル」として営業するそこは夜になると、おいしい夜食を食べさせてくれるカフェ「マカン・マラン」へと顔を変える。扉の向こうで出迎えてくれるのは、ピンクのウィッグに、バチバチのメイクを施し、厚い胸板を持つ体にドレスを纏った店主のシャル。はじめは誰もがシャルの姿に驚き、逃げ腰になるけれど、シャルの手料理を口にすれば一瞬でその味の虜になる。体のことを考えて丁寧に作られた料理と、シャルの温かい言葉が日常に追われて疲れ切った人の心と体を優しく癒してくれるのだ。しかし、そんなシャルはある深刻な問題をひとり抱えていたのだった…。

日常にある幸せに触れてホッと一息

914.6-3 『小さな幸せ46こ』 よしもと ばなな || 著 中央公論新社

『小さな幸せは、たくさん集まっても決して大きな幸せにはならない。でもふっと人を救ったり、よく眠らせたり、他の人に伝染したりする』(本文より)

飼っているメダカの子が無事に成長してくれた時に、時々食べたくなる「あの味」のお店の変わらない安心感に、色々あった相手と再び笑い合えた時に、友の話を聞きながらうたた寝をする心地よさに宿る小さな幸せ。よしもとばななさんのこのエッセイを読んでいると、こんな風に日常を1コマ1コマ丁寧に振り返ってみたら、等しくみんなの人生に小さな幸せがたくさん存在しているに違いない、という気持ちになります。自分の小さな幸せを探しながら読んでみてください。

どこまでも続いていく道を眺めてホッと一息

748-S 『道のかなた』 ヘルムホルト M・シュミット || 著 ピエ・ブックス

言葉の優しい響きにホッと一息

911.5-I 『やさしいけしき』 市川 紀子 || 選詩 理論社 もおすすめ!



私の平成No.1作家は…、この人だ！！



高橋優美花先生の平成No. 1作家は…、石田衣良だ！

★イチオシ★

913.6-イ『池袋ウエストゲートパーク』 石田 衣良 || 著 文藝春秋

かつて愛読した本の主人公の年齢をいつの間にか超えてしまったことに気がつき、衝撃を受けたことはないだろうか。私にはある。人生の中で1番本を読んだのは高校生の頃だったと思うが、私はとっくに作中の彼らよりも歳上になってしまったようだ。

今回、平成を代表する作家として石田衣良を挙げたい。なぜなら、彼の書く作品には平成という時代に即したテーマが描かれているからだ。平成には何があったのか。おめでたいことがあったが、社会問題が浮上しては解決せずに消えてしまうこともあった。

石田氏はそれらの問題をテーマとして取り込み、主人公たちが知恵・腕力・人脈を尽くして解決をしていく作品を執筆した。

高校生の頃、夢中で読んだのを覚えている。本文を書くにあたり読み返してみたが、何度読んでも面白い。読書の長所は、いつでも作中の世界に帰って来られるところだと思う。現実がどんなに変化していても、本を開けば色褪せない世界がそこにある。



結城先生の平成No. 1作家は…、吉田修一 だ！！

★イチオシ★

B913.6-ヨ『パーク・ライフ』 吉田 修一 || 著 文藝春秋

修学旅行で訪れた日光東照宮に父から貰った腕時計を忘れた。陽明門の前のベンチの裏の石の窪みに確かに置いてきてしまった。そのことがずっと心に引っかかっていた。

ある朝、意味もなく通勤途中で仕事を無断で放棄して、不意に何もかも投げ出して高速に乗った。自分が失踪したことになってしまう自覚はあった。そこで時計のことを思い出して日光へとハンドルを切った。十五年以上も前の忘れ物がまだあるはずはないだろうけれど、もしかしたら、という気持ちで車を走らせた。

というのは吉田修一の短編『パーキングエリア』(『春、バーニーズで』より)の話。勿論、失踪などしたことはないが、通学路で立ち止まり、今日学校へ行くのをやめようと思ったら、この主人公は自分になるかもしれない。何故そんなことを？という現代の人の心の機微を圧倒的リアリティで吉田修一は丁寧に描き、薄暗い部分にも光を当てる。日常は選択の連続、今もし別の道を選んだら運命は変わっていくかもしれない。無数の失われた可能性、もしかしたら自分がそうなったかもしれない選ばれなかった時間や心理を彼の作品を読むことで追体験することができる。



鈴木信滉先生の平成No. 1作家は…、朝井リョウ だ！！

★イチオシ★

914.6-ア『時をかけるゆとり』 朝井 リョウ || 著 文藝春秋

どくしょ【読書】—する

一時現実の世界を離れ、精神を道の世界に遊ばせたり人生観を確固不動のものたらしめたりするために、本を読むこと。

「読書」=「課題」として考えてしまう高校生は少なくない。なぜなら、勉強や部活動で充実した学校生活を送っていて、本を読むには本を読む時間を取って確保しなければならないからだ。しかし、これは読書の本来の姿ではない。「本当の読書を経験したい」と思うのであれば、彼の作品を読むべきである。彼の作品は読むための時間を確保しようと思わなくても自然と読み進めてしまう。学生時代に経験した、あれほどまでに表現できなかった自分の感情を、なぜあそこまで忠実に端的に表現できるのか。改まって書くまでもないようなことまでも面白おかしく書いてしまう。読書とは、まさに彼の作品を読むことだと言ってもよい。さらっと読むことが多い私を深く読み込ませた彼こそ平成No.1の作家である。



迫先生の平成No. 1作家は…、舞城王太郎 だ！！

★イチオシ★

913.6-マ『阿修羅ガール』 舞城 王太郎 || 著 新潮社

西加奈子と迷いましたが…彼女は改号後も活躍しそうなので今回はこの人を。

つい問題を先送りにして、そのうちに忘れて、あまつさえ解決したと思込んでしまうことというのは誰でもあるのではないかな。一人の人間でこれだから、時代をまたげば尚のことでしょう。個人的に、平成の30年間は昭和とその次にくる世界的な激動の間のぼやぼやした何かという感じで、急速に忘れられていくような気がしています。それでもこの時代は酒鬼薔薇、地下鉄サリン、秋葉原の通り魔などある種象徴的な、一言で片づけられない事件が立て続けに起きた時期でした。

世間はおおむねそれらを気味悪がっておしまいましたが、舞城はじめ一群の作家はそんな平成の一見得体のしれない部分にそれぞれの仕方て光を当てて、彼らなりの解釈、共感、批判を試みていたと思います。『阿修羅ガール』はそういう意味で平成的なものがとことん詰まった作品として楽しみ、かつ忘れても消えることはない様々なことについて考えさせられます。



鈴木司書の平成No. 1作家は…、ローリングだ!!

★イチオシ★

933-ロ『ハリー・ポッターと賢者の石』他 ローリング||著 静山社

本に書かれた物語が、リアルな世界を変えてしまう。しかも、文化的背景も年代もこえて地球規模で。そんな奇跡を目撃した気持ちになるのが、このハリー・ポッターシリーズです。そもそも、魔法使いだろうと妖怪だろうと日本では主人公になり得ました。私もまったく違和感なく楽しみ、裏テーマの死や孤独に胸を痛めました。ところが驚いたことに、米国の教会による「ハリー・ポッター」焚書のニュースが流れてきました。魔法使いの少年ハリーの活躍は保守的なキリスト教者にとって神への冒瀆だということです。そうした反発を受けながらも、世界200か国 79 言語に翻訳され広まり、子供だけでなく大人の読者も巻き込み、また生活保護を受けながら書いたというローリング自身の物語も人々の感動を呼びました。ひとつの作品が世界に認知され共通の文化となっていく過程には、巨大なエネルギーの流れを感じました。物語によって社会現象をおこした平成ナンバー1作家でしょう。そう思うと、日本の作品がもっと海外の人にも読み易い言語で簡単に提供できるようになる次の時代に、どんな現象を巻き起こすのかが楽しみになります。



今井司書の平成No. 1作家は…、三崎亜記だ!!

★イチオシ★

913.6-ミ『となり町戦争』三崎 亜記 || 著 集英社

平成の30年間でたくさんの作家さんの本と出会った。No. 1には、大好きなあの作家さんを挙げようと文章を書いていたのだけど、途中でふと意外な作家さんが頭に浮かんだ。

「内外、天地に平和が達成される」という意味が込められた平成は、大きな戦争を経験した昭和を教訓に平和を守ってきた時代だった。そこに三崎亜記さんは『となり町戦争』で「今こういう形でまた戦争が起こるかもしれないって思いませんか？」と読者に投げかけてきた。業務のように行われる戦い、数字や言葉で示されるばかりで現実味のない戦況、それは確かに「今の時代、人はこんな戦いをするのかもしれない」と背筋がゾットするものだった。ひさしく三崎さんの作品は読んでいなかったが、平成No. 1作家は誰かと考えた時に、無意識の内に名前が浮かんできたのは、それほど強烈な印象を残す作品を生んだ人だったということだ。日々進化する私たちの生活に、戦争は形を変えて近づいてくるかもしれない。次の時代も平和であるようお願い、戦争の怖さを新しい方向から示した三崎亜記さんを平成No. 1作家に挙げたい。



まだまだ続くよ♪先生方の平成ナンバー1作家



宮本先生の平成No. 1作家は…、有川浩だ!!



★イチオシ★ 913.6-ア『植物図鑑』有川 浩 || 著 文藝春秋

仕事で疲れて帰った時、家の前にイケメンが…! 「お嬢さん、よかったら俺を拾ってくれませんか」みなさんなら、どうしますか。

恋愛ものの小説が好きで、中でも有川浩さんの書くものはまるで少女漫画かのようなきゅんきゅんさせられるものが多く、好きな作品が多いです。

今村先生の平成No. 1作家は…、高杉良だ!!

★イチオシ★ 913.6-タ『出世と左遷』高杉 良 || 著 新潮社

個人的に好きなジャンル。現実的に有りそうで、人が簡単に成し遂げることができないような、できるような、とても興味付けが上手い作家さんだと思います。



遠山先生の平成No. 1作家は…、J. D. クランボルトだ!!



★イチオシ★『Luck is no accident : making the most of happenstance in your life and career』(366-ク『その幸運は偶然ではないんです!』)

クランボルトの理論では「学習し続ける存在」としての人間が強調され、人間は新しい行動を獲得したり、変容していくことが可能であることが示されています。人間に偶然にもたらされた機会を自らの主体性や努力によってキャリアに生かしていく必要性を説いています。出会いや人生の転機について考えさせられました。

蛭原先生の平成No. 1作家は…、桜井弘だ!!

★イチオシ★ 910-サ『宮沢賢治の元素図鑑』桜井 弘 || 著 科学同人

宮沢賢治が農学校出身の理系男子だと知っていましたか。童話で知られる彼の作品には多くの元素が登場します。例えば、Li の炎色反応はサソリの赤(さそり座のアンタレス)など、桜井氏の著書から宮沢賢治の作品に登場する色々な元素を探してみてください。

